

2022年10月3日（月） 晴れ

先週金曜から秋晴れが続く。ただ気温は30℃前後、昨日は夕方から風がなくなり、夜でも少し暑かった。それも明日まで、明後日から本当の秋になるらしい。ちなみに今夜は上弦の月。

－ 漂っていて、右にも左にも －

『世界における索引と徴候』（中井久夫）、図書館で2回借りて、まずは読み終わりました。著者は過日あの世に逝かれましたが、こうしてその知にふれられてよかった。その気になれば誰もが超人の知にわけいることができる。書物あつての賜物ですね。

この本もまた学びが多かった。読書メモも5ページになりましたが、それとは別に目を引いたのが、「筆写」と「暗唱」です。著者は高校時代、リルケとヴァレリーの原書を筆写して持ち歩いていたそう。そして、「私はしばしば好みの文章の暗唱を好む」。

医学か文学か、進路に迷うほど、医師になってからも文学の世界に身をおいた人。知の垣根を超えて、それこそ今朝読んだ老子の第34章の冒頭のように。

『道（を体得した人）は漂っていて、右にも左にも行くことができる』

今朝はピンといまいませんでしたが、「中井久夫」のような人をさしているのかもしれませんが。老子の説くところに「中井久夫」がいるようにも思えます。世俗にいながら、そこに漂い、ゆるやかに超えて、でも人々の生を下支えする、そんな印象を持っていますから。

次から老子を読むとき、「中井久夫」を頭におくといいかもしれません。今朝読んだ時点での漠然とした感じが、ちょっとつながった、少し風穴ができた、そんな気になりました。小さなセレンディビティー。

2022年10月5日（水）曇り

今日から空気が一変するとの予報だった。でも朝の段階ではそれほどでもない。いったんシルクのスカーフを肩にかけたが、まだ暑かった。夜には少し肌寒いかもしれないけど、秋服は明日からに。

－ 女装の老人 －

街を行き交えば、いろいろな光景を目にします。特に通勤時間以外の時間帯に社会の様相、世相の一端が映ります。

6月だったか昼下がり、東梅田駅の改札を出てすぐの通路で、中央の柱の前に胡坐をかいたように座りこんでスマホに食いついている女性を見ました。ジャンクフードばかりかと思わせる太り方で年令は40代初めぐらい。この女性のおかれた状況はいかに。

先日図書館へ本を返しに行ったとき、地下鉄西長堀駅を降りて出口の方へホームを歩き始めたら、3メートル先に何とも目立つ人が同じように出口におかっていた。

明らかに高齢の男性。背丈があり、かなり細く、髪は薄くグレーでセミ、体がやや左に傾いていて猫背で、黄色と白の化繊レース地の超ミニスカートから、半透明のストッキングをはいた、いかにも男性らしい、細いけど筋肉質の長い脚がのび、ピンクベージュの中ヒールの靴音が、体の傾きどおりのリズムを刻みながら、歩いていました。

顔はどんなかしら。改札を出て、左に曲がったとき、少し見えました。想像するともなく想像していたのは面長でしたが、横広がりの、ちょっと後姿の印象とはギャップがある。

どちらかというと、小顔で小ざっぱり化粧をしていそう。でも、ノーメクの老人顔。ひょっとして図書館へ行くのか?と思ったら、そうでした。改札から直結していて、後についていくことになります。

どうやら常連の利用者のよう、窓口で数冊返却し予約の本について尋ねていました。声が大きいので、何の本か聞こえる。ハードボイルド。なんとなく頷けるような…。

2022年10月7日(金)

お昼に散歩がてら『ジュエルっ子物語』絵本原画展へ
<https://www.instagram.com/gallery.hyaku/>

著者の濱田アキさんからご案内あり。会場はこの展示がギャラリーオープン記念でもあるとか。オーナーともご挨拶しました、人のいい感じの方でした。濱田さんとは1時間少々おしゃべり、今後めざす道を知って、感心、感嘆したのでした。



2022年10月11日(火) 晴れ

先週は夏から秋へ気温が一転、ようやく秋服を着る。8日の「十三夜」は望めなかったのが、昨夜は満月、今朝西の空にくっきり。朝一番月の気をいただく。

ー 時間がすぎてー

いつとき“わかった”気になっても数年後には“まだまだわかってなかった…”とわかる。これを何度くり返えしてきたでしょう。まだまだこれからも同じように繰り返すと思います。

人の存在の重み、そういうことも時間が経って気づくことがある。学生時代の恩師がそうだし、今からちょうど10年前、祖父を初めて身近に感じた時もそうでした。

現存するものはお墓だけで、話にも聞いたことのない祖父を、ある出来事で、初めて心から感じるものがあつたのです。そんな局面が訪れようとは…、自分でも本当に驚きました。人間やはり長生きするものです。

20年ほど前に知った「中井久夫」。その存在が今、強くなってきました。知人から教えてもらった『治療文化論』を読んだのが初めて。専門に埋没しないグローバルさに親しみは感じましたが、先にはいかなかった

ずいぶん時間がすぎて、2017年に出た『私の日本語雑記』を読んで、すごい人だなあと感服、敬服しました。この本からの引用を仕事で何度となく使わせてもらっています。

8月に他界されたのを機に、専門以外の執筆の書籍を選んで一冊読みました。なぜもっと早く読まなかったんだろう、そんな風に感じています。昨日2冊目を図書館で借りて最初の部分を読みました。

まったく畑違い、知のレベル違いではあるけど、何かしら近いものがある、感じる。知っているのはもっと前に知っていたのに、今そのことに気づく、こういうこともこれから何度もあるでしょうね。

オートポイエーシス、自己の刷新・再編集。

2022年10月13日(木) 晴れ

今日は朝からよく晴れている。陽ざしが秋なので、青空も落ち着いた色合い。街路樹の葉は落ちぶれて、黄色が交じる。枯れて落ちた葉がそばの商業ビル一階通路にまで風に吹かれる。まさに秋の風景。

ー 知らずじまいでもー

この季節になると、方々から行事やイベントの案内・お誘いが届きます。昨日旧知の人からメールがあつたのは、自主企画の落語会。何度めの企画でしょう、よく続けているなあと案内が届くたびに感心します。好きという意識もないほど、そうすることが当たり前、そんな風なんでしょ

夏とちがって秋は外へできる気、歩く気になるので、タイミングが合えば、案内に応じて出かけます。時には会うのが久しぶりの人と、近況を語り合い、あれやこれやと話しこみます。

先日出かけて数年ぶりに会った人とも色々とお話しました。この間のことを、いま何をしているか、そして、自然に尋ねたくなるのは今後についてです。仕事上の習性というより、若い頃からそんな会話のパターンです。

答えは意外な展望でした。ご本人にとってはけっして意外ではないんですが、こちらは、“そうか、そういう想いをもっていたのか…”。相手のこちらを見る目と表情、そこに何かしら内に秘めた熱情をみる気がして、尋ねなければ知ることもなかっただろう未来像に思いを馳せるので

表には何気ない様子ながら、内には毅然とした決意。公私ともに、時々そういう人に会いますが、そうと知って相手の背景にみる、そこに至るまでの葛藤、あるいは軋轢。それが彷彿とされて、「人にドラマあり」をあらためて気づかされます。

聞いてみて知って、感じさせられること多々なわけですが、知らずじまいだったとしても、その人の葛藤、軋轢、ドラマはあるわけで、そこを落としてはダメですね。みな、何かいろいろな想いを秘めている、それが

2022年10月15日(土)

大阪城公園午後4時半ごろ、自転車で事務所へ行っの帰り

結局2本目もダメになった「ホンコン」の植木を取りに事務所へ。日焼けをさけるつもりで午後の遅めに出たけど、顔まともに直射日光。まるで9月のお天気。





2022年10月17日(月) 雨

土曜から昨日日中まで晴天、気温は高く、9月の感じ。今朝もまだ暑く、地下鉄車内は冷房がかかっていた。今日の雨の後も気温はそんなに下がらなさそう。10月感がとぼしい。

－ 気づいて、その後 －

映画『さかなのこ』がいいらしい。さかなクンの成長物語の映画化、原作もよく読まれているそう。持って生まれた資質をよしとして親が全面的に後押し。8月、日経「Analysis」に載った「幼少期の学習支援、最重要」を思い出します。

人間・人格形成に、もって生まれた資質の貢献度は50%、環境50%といわれています。特に脳が急成長する3、4歳から10代半ばぐらいまでがやはり大きな鍵になるんじゃないでしょうか、その後の人生形成の。学習のための学習能力をつかむ貴重な10年。

将来への不安を口にするけど、腰をすえて何か一つ勉強しようとはしない。その気さえあれば、制約条件はほとんど無いのに、そうしない人がいる。たぶん勉強が嫌いというのでもなく、そういう習慣、習慣までいなくても、「発想」が身近でないのでは？

なぜそうなるか。子ども時代に親や回りの大人からそういう気風を受けていないのが根本的な要因ではないか。例えばわたしのきょうだい6人、かろうじて父の気風をうけた長女のわたしとすぐ下の弟と、そうでない下4人とは、年を重ねるほど、生活文化が違ってきています。

仕事をとおして多種多様な人の話を聴き、助言をし、必要に応じて協働してきています。これまで何度となく、“この差は何だろう…”の場面あり。同じことを言っても、反応はさまざまなのは当然として、そもそも、受容できる・できない、ピンとくる・こない、その差。

どうやらそういうことも子ども時代に宿ったのかもしれない、そう気づく時がくるのも人間、年齢、時間のなせるわざ。気づいて、そのままにする、磨きをかける、あるいは刷新に動く、それは自分次第ですが。

2022年10月20日(木)

秋晴れ、絶好の行楽日和、とはいえ仕事、夕空のぞむ



2022年10月21日(金) 晴れ

秋晴れ続く週後半、「絶好の行楽日和」ピッタリの天気。街にはキャリーを引く人が増えた、外国人も目につくようになった。これからの京都はまた人であふれそう。そういえば「時代祭」…、チェックすると明日。

ー つぶやき ー

日本はやばいんじゃないか。昨夕、NHKのニュースサイトをチェックして、「神戸児童連続殺傷事件当時14歳少年の全事件記録家裁が廃棄」を見たとき、直感的にそう思った。

公文書の隠ぺい・廃棄問題も記憶に新しい。数日前の新聞には国のコロナ対策で用意されたWi-Fi機器が未使用のまま残っているという記事が載っていた。

今年だけでも同じような記事を何度も見た。診断士の勉強を始めた頃から読んでいる日経で、過去30数年、「生きたおカネ」にならずに終わった施策やプロジェクトの記事を、くり返し繰り返し、読んできた。

虐待をうたがわれる児童の保護に、専門家がそんな感覚でどうするのかと、一般人が情けなくなるも多い。いじめの問題に正面から向き合えない、対応できない教師や教育委員会にもまた唖然とした。

生活者の生活基盤となる政治、教育、そして「保護」にかかわる機関がどこを向いて仕事をしているのか。悪や偽を正し、良と真を守るところでなければ、どうするのか。

でも救いは、「中井久夫」もいう「無名の人々」。いつの頃からか、日本がもっているのは個人だなると思うようになった。政治や大きな組織は〈イマイチ〉でも、何かしら志をもった個人が、目立たない範囲で活動している。そういう個人が社会のすそ野にちらばっている。

その人たちが継続して活動できることが、国としてのバランスを保つことになる。この意味あいは今後ますます強くなるにちがいない。

2022年10月24日(月) 晴

昨日は「寒露」、でも陽ざしがつよく日中は暑いくらいだった。日は短くなっているので、外へ出ても早く暗くなるのが難。ちなみに今日大阪の日の入りは17時13分。

— 『清陰星雨』 —

20年前に知って、5年前に感服して、今年めざめた「中井久夫」。『世界における索引と徴候』を読んで、たぶん今、この人の洞察にふれる必要があるのではないかと、また一冊図書館で借りたのが『清陰星雨』。

1990年から10年、年4回神戸新聞に掲載されたエッセイに補説を加え書籍化されたもの。バブル崩壊、東西冷戦終結、阪神あわじ大震災、オーム真理教、インターネット元年、金融大破綻・・・。

1934年生まれの中井久夫、50代半ばから60代半ばにかけての視点、直観。本文もさることながら、補説に目を瞠る記述がある。最初の3つほどを読んで、“これは自分でも持っておこう・・・”。モノは増やさないつもり、でもこれは買っておこうと思った。

気になるところは多く、記録するのは大変だし、そのまま図書館に返してしまうのが惜しい気持ちにもなる。それにたぶん、これからは折にふれ、何かしら示唆を与えてくれるはず、個人的にも、そして誰かにとって

そうだ、老子が終わったら、これを読もう、昨日そう思いついた。今のところは、2023年の「計」の一つにしようと思っている。老子は年内にたぶん詠みおわる。続けてみると、音声にするのもなかなかいい。空気感というか、そういうものが。

2022年10月27日(木) 曇→晴

空気が乾燥しだしたからか、このところ喉の調子がわるい。マスクもいけない。加湿器は月曜にだした。そういう季節になった。

ー 「セクシャリティーって、」 ー

“そんな風に考えたことはなかった…”。ジェンダーフリーなスポーツジム運営をよびかける起業家と先日話した時、「わたしは、今は男性が好きで、子供も産んだけど、いつ女性を好きになるかわからない。セクシャリティーって、そういうものだと思うんですよ」。

一瞬フリーズした、意表を突かれたような感じになった。はっと我にかえり、自分に言い聞かせるように、冒頭の言葉が口をついて出た。これまでまったく〈眼中に無い〉というか、考えなかったこと。

診断士の勉強を始めた頃、だからもう30数年前、同じように診断士をめざしていた男性と知り合った。先方がなぜかすごく親しみをもってくれた。あとで親友がkoreanだと話してくれた。

追って診断士の合格し、それぞれのフィールドで仕事しながら、1、2度一緒に仕事したこともあるし、ずっと年に一度ぐらいは会って話した。一緒にいるとこちらの方が男性っぽく感じる人で、誰もがそう感じた。

何度も会って話してきたし、人に話さないだろうことも聴いてきた。こちらがピンときてなさそうなことを、自分から〈匂わす〉こともあった。それが2つある。一つはさておき、もう一つがセクシャリティー。

2つともこちらから聴き直したことはない。ひょっとすると聴き直してほしかったのかもしれないと後で思った。ある程度はなんでも話せる相手だから、安心して話せて、隠しごと(?)を無くすこともできる。

昨年、受験勉強をしていた人たちとも一緒に会うことになった。近況報告をし合い、一段落して勉強当時のことなども話して、そしてついに仲間の一人が彼に尋ねた、セクシャリティーについて。

彼はもう心が解いている感じだった。答える姿勢だった。答えを待つこちらがちょっとドキドキした。「好きなのは、男性」、はっきりと言った。曖昧なままでもよかったけれど、長いつきあいの彼の、長い道を背後に感じ

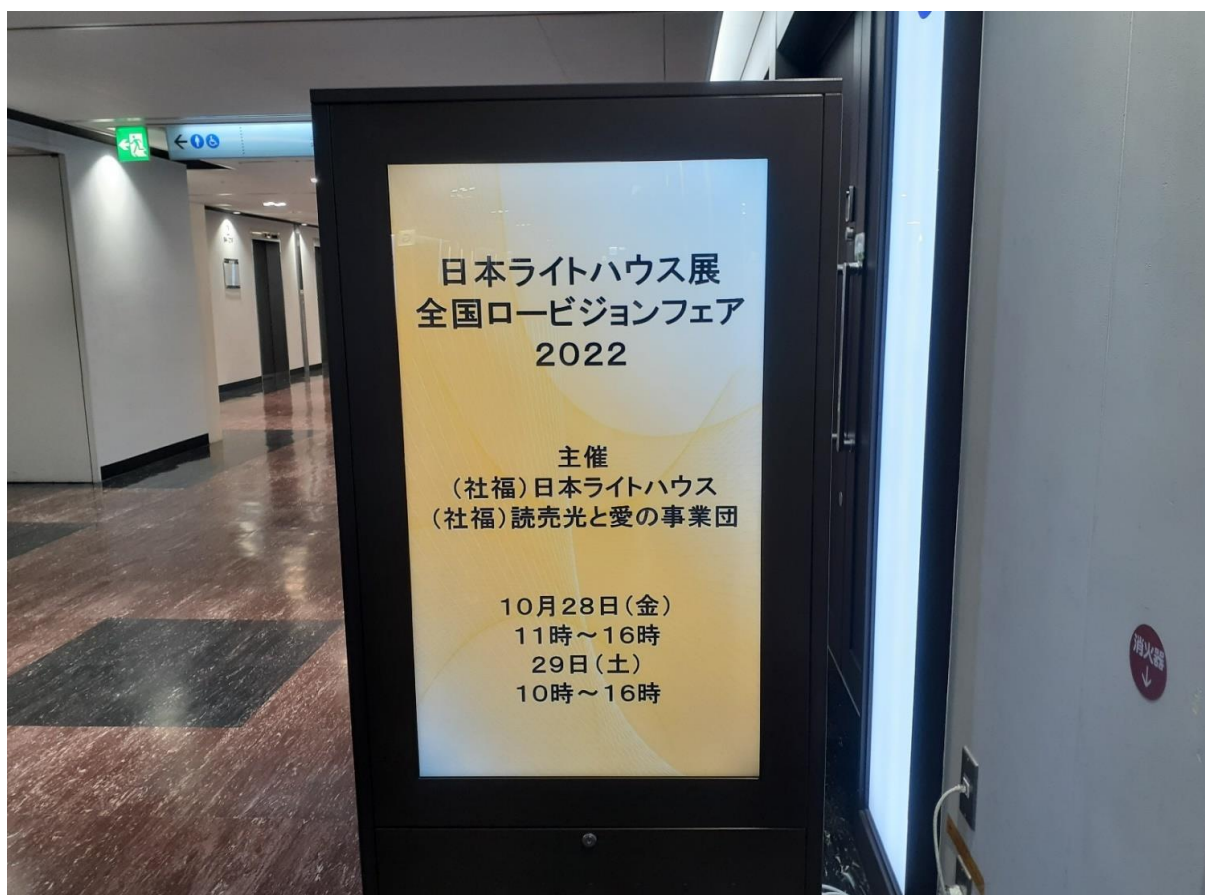
今こうして書いてみれば、こちらの方が〈隠しごと〉をしていた気がす

2022年10月28日(金)

天満橋OMMビル、「日本ライトハウス展」

先日「早川福社会館」へ行った時、お知らせコーナーにこの展示案内があり、お昼に買い物がてら行ってきました。まったくの初めて、どんなブースが出展しているのか興味があっていってみると、会場にはたくさんの方の来場者、ちょっとびっくりしました。いろいろな機器、サービスがある。ちゃんとこういう世界があるんですね。

ちなみに「日本ライトハウス」は今年100周年だそうです。



2022年10月29日(土) 晴

今日もすっきりとよく晴れ、「絶好の行楽日和」。いつからか「ハロウィン」が広がり、「大騒ぎ」の警戒がよびかけられる。なんのための「ハロウィン」かしら。

— 「体験や経験を、」 —

自分からすすんで読む本には必ず何か賜物がある。“これでいいんだ…”といったような自分に〈お墨付き〉を与えられることもよくある。本の中に別な著書、著者をことが書かれていて、そちらもあたって、少し知をまた広げることできる。

そうして図書館で借りた一冊。『声—記号にとり残されたもの』(工藤進 白水社 1998年)。とりあえず見てみようと思ってのことだけど、「はじめに一五千年前の声」を読んで、“これは全部ちゃんと読んだ方がいい

最初のページに著名な宮大工「西岡常一」が「偉い学者」について話したことが載っている。「体験や経験を信じないんですな。本に書かれていることや論文のほうを、目の前にあるものより大事にするんですな。学者たちと長ごうつきあいましたが、
感心せん世界やと思いきいたか」

体験や経験。いま一般にいう時のそれらの概念や意味あい、かなり表面的にしか捉えていない気がする。「西岡常一」の言うのは、それらの積み重ねから心身のそなわる微細な感覚、〈情報処理〉、「専門的なスキーマ」、体験や経験がもたらすもの、賜物をさしているのではないか

仕事や生活の、体験や経験を重ねて、本に自問自答の素材をもとめて読み重ねる。おのずと賜物はさずかる。